

国立国会図書館



特集展示 **1945** 終戦の前後、何を読み、何を記したか

和紙、大活躍!! 図書館資料を和紙でなおす

知を活かす—英国図書館の新ビジョン

Living Knowledge: The British Library's Future Vision

世界図書館紀行 英国図書館・スコットランド国立図書館

2015.10
No. **654**

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00			
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30			
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00	13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

10 October

CONTENTS

02 特別装丁の博文館の雑誌『太陽』記念号

布川文庫の雑誌コレクション紹介

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 特集展示 1945 終戦の前後、何を読み、何を記したか

09 和紙、大活躍！！ 図書館資料を和紙でなおす

16 知を活かす—英国図書館の新ビジョン

Living Knowledge: The British Library's Future Vision

22 世界図書館紀行 英国図書館・スコットランド国立図書館

15 本屋にない本

○『安定化処理 大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト Stabilization processing』

28 館内スコープ

国会議事堂内での図書館運営 国会分館

29 NDL NEWS

○平成27年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会
○第6回科学技術情報整備審議会
○法規の制定

33 お知らせ

○第17回図書館総合展に参加します
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

特別装丁の博文館の雑誌『太陽』記念号

布川文庫の雑誌コレクション紹介

長尾 宗典

現在、東京本館人文総合情報室で利用に供している「布川文庫」は、^{ぬのかわかくごえもん}布川角左衛門（1901～1996）氏の収集による出版史関係資料のコレクションである。

今回紹介する博文館の雑誌『太陽』は、日清戦争以後の出版界を代表する雑誌として著名である。明治30（1897）年6月発行の『太陽』第3巻第12号は、博文館の創業10周年を記念する特別号で、坪内逍遙の「当世書生氣質」など、「他日明治の小説歴史に於て重要な位地を占むべきもの¹」とされる小説7編を収録し、この年の春から博文館編輯局に加わった気鋭の批評家・高山林次郎（^{ちよざんろう}梶牛 1871～1902 写真5）の評論「明治の小説」も載せている（写真2）。

この『太陽』第3巻第12号だが、実は布川文庫では2冊所蔵している。そのうち1冊は、通常版（写真4）と異なり、写真1のような赤い表紙の上製本となっていて、墨書で宛名が書かれた献呈用のページ（写真3）が挟み込まれているのが目を引く。

謹啓仕候今月十五日は本館創業の第十週年に相当致候に付紀念として本書出版仕候即平生御眷顧の万^{けんこ}一^{むく}に酬^{むく}ひんが為め特^{そうてい}に装釘^{ころ}を凝し一部を坐^{ほうていつかまつりそうろうあいだ}右に捧呈仕候間御一覽の榮を給はり候はゞ大幸の至に御座候不宣
明治三十年六月 大橋新太郎
小金井良精殿²

文中の大橋新太郎は、博文館主（社長）の大橋佐平の息子で、父佐平とともに博文館の

経営に参画した人物である（写真6）。欄外には特製一千部限とあり、創業10周年を記念して増刊号を発行した博文館が、上製本の特別版を関係者に配布していたことがわかる³。

博文館『太陽』は、創刊当初から多くの名士大家を賛助員として集めていたが、同誌を贈られた小金井良精（1858～1944 写真7）は、博文館の名誉賛成員にも名を連ねていた一人である。人類学者としても知られる医学博士であり、森鷗外の妹婿でもあった。

また、小金井良精は、博文館主の大橋佐平と同郷の越後長岡の出身で、博文館とも浅からぬ縁を持つ人物だった。『大橋佐平翁伝』によると、明治20（1887）年、大橋佐平が上京して出版業を始めようとした際、小金井は本郷区弓町二丁目の借家を斡旋している。これが博文館の最初の店舗となった⁴。つまり、本資料は、博文館が創業時の恩人に宛てて、感謝の意味で贈った記念の一冊ということになる。

布川氏は、生前から博文館の出版感覚と実行力に注目し、日頃から若い人に向けて「博文館を研究し給え、そこに多くの企画のヒントと教訓がある⁵」と語っていたという。この資料については、同じ号を比較して2冊集めることで、博文館の雑誌『太陽』に、複数の版が存在していたことを残してくれたわけである。

布川文庫のコレクションが物語る出版史の世界は、まだまだ奥が深く、興味が尽きない。（ながお むねのり 利用者サービス部人文課）

1 大橋新太郎「博文館創業十周年記念臨時増刊の辞」『太陽』第3巻第12号、1897年6月、p.2
<請求記号 VG1-66>
2 同上、巻頭
3 この上製本の存在については、『太陽』CD-ROM 別冊 太陽総目次 日本近代文学館編、八木書店、1999
<請求記号 YH247-145>
解題 pp. 22-23 にも指摘がある。
4 坪谷善四郎編『大橋佐平翁伝』博文館、昭和7、pp. 56-57
<請求記号 618-113>
5 布川角左衛門『本の周辺』日本エディタースクール出版部、1979、p. 197
<請求記号 UM11-53>



太陽 第3巻第12号 明治30(1897)年6月
 <請求記号 VG1-66>



写真1 特別装丁版表紙

写真2 目次(部分)

写真3 献呈用のページ



写真4 通常版の表紙



写真5 高山樗牛
 (『近代日本人の肖像』より)



写真6 大橋佐平と(左)大橋新太郎(右)
 (『大橋佐平翁伝』より) (協力: 博文館新社)



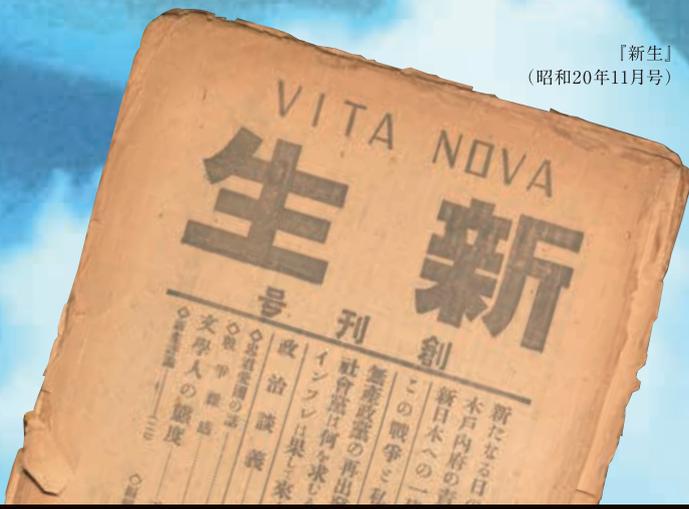
写真7 小金井良精
 (『人類学研究 続篇』<請求記号 469Kc517z>より)

布川文庫について

布川文庫は、現在、東京本館の人文総合情報室で閲覧できます。同文庫の図書は人文総合情報室備付けの「布川文庫閲覧用リスト」(請求記号順、タイトル順)で、また、雑誌等の逐次刊行物は、リサーチ・ナビの専用ページ(<http://mavi.ndl.go.jp/humanities/nunokawa.php>)から検索が可能です。

布川氏の人と業績については、日本出版学会「布川角左衛門事典」編集委員会編『布川角左衛門事典』(『布川角左衛門事典』刊行会、1998)*左肖像はp.231より、小林恒也『出版のこころ: 布川角左衛門の遺業』(展望社、2011)、長尾宗典「この人を知る 布川角左衛門」『国立国会図書館月報』594号(2010.9)を参照。

『新生』
(昭和20年11月号)



『週刊少国民』
(昭和20年9月2日/9日号)

平成27年度
国立国会
図書館
特集展示

1945

終戦の前後、
何を読み、
何を記したか

今年には終戦から70年の節目の年に当たります。70年前、昭和20(1945)年前半の日本は、第二次世界大戦での敗勢が極まり、本土決戦も叫ばれていました。春頃からは空襲で主だった都市が焦土と化し、極限状態に陥ります。夏に終戦を迎え、灯火管制が解かれ明るくなった町には、ついこの前まで敵性語であった英語が飛び交うようになりました。

そんな激動の中でも、本や雑誌は出版されていました。そこには一体どんなことが書かれていたのでしょうか。また、その時代を生きた人は、どんなことを書きとめていたのでしょうか。「玉音放送」が流れた8月15日を境に、その内容はどう変わったのでしょうか。それとも変わらなかったのでしょうか。

今回の展示会では、昭和20(1945)年に出版された本や雑誌、そして政治家・軍人が記した日記や書簡を約45点*展示します。展示ケースの中に現れる「1945年」を、ぜひご覧ください。

この記事では、10月と11月に開催する、特集展示「1945」でご覧いただける資料から、ごく一部を紹介します。 * 展示替えを含めると合計で約80点 (展示委員会企画展示小委員会)

『写真週報』
(昭和20年1月24日号)



『米軍投下ピラ』

東京

10月5日(月) ~ 11月2日(月) 9:30~19:00(土曜は17:00)
日・祝・第三水曜(10月21日)休館

東京本館(東京都千代田区永田町1-10-1)新館ホール
* 東京会場では展示替えを行います。前期は10月5日(月)~17日(土)、後期は10月19日(月)~11月2日(月)

関西

11月13日(金) ~ 28日(土) 10:00~18:00
日・祝・第三水曜(11月18日)休館
(ただし11月15日(日)は開催)

関西館(京都府相楽郡精華町精華台8-1-3)大会議室

いずれも入場無料



『阿南惟幾日誌』



主な展示資料

【 】内は請求記号。

あ なみ これちか 阿南惟幾メモ帳

【阿南惟幾関係文書 18】

阿南惟幾日誌

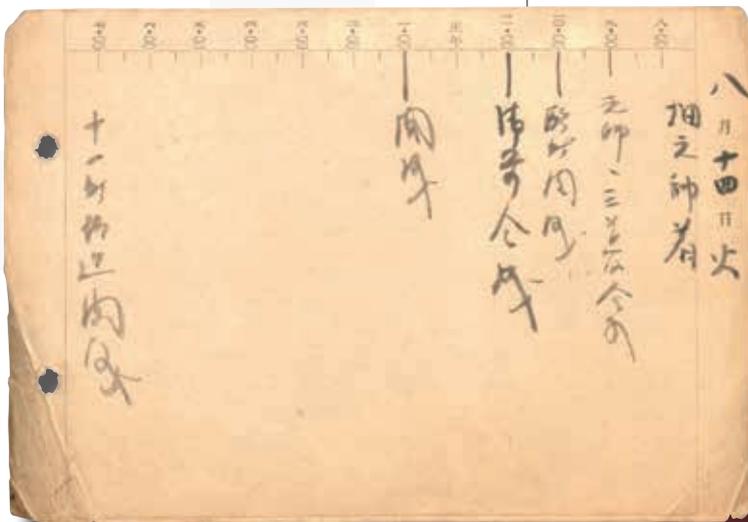
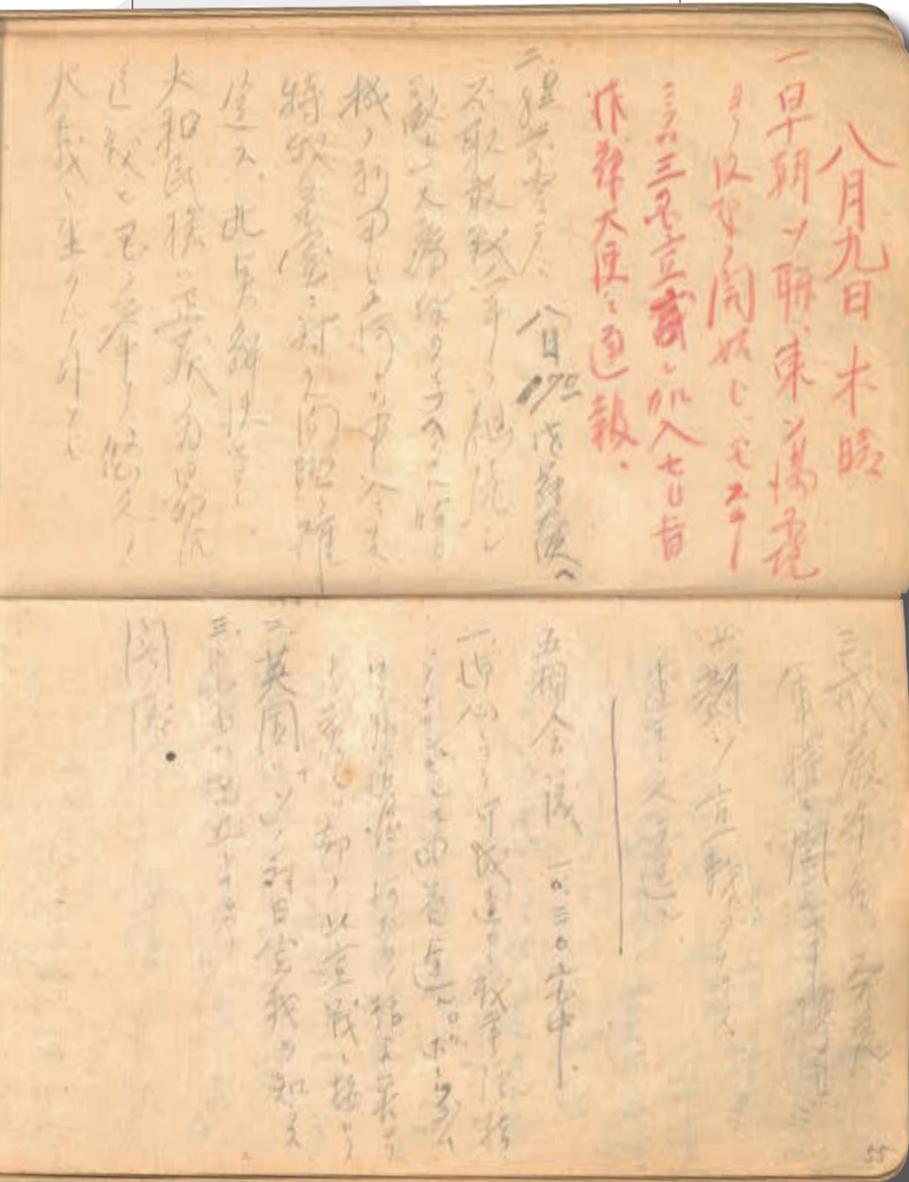
【阿南惟幾関係文書 17】

戦局が刻々と日本に不利な状況となるなか、8月9日には、「ソ連参戦」の一報が阿南陸軍大臣のもとに寄せられました。阿南の当日のメモ帳(上)には、「早朝ソ連が満洲との国境より攻撃を開始し、モスクワではソ連が「三国宣言」(ポツダム宣言)に加入した旨、佐藤尚武駐ソ大使に通報があった」という切迫した情勢が、赤鉛筆で記載されています。

一方「日誌」と題された阿南の行動記録(下)は、終戦を決定した8月14日の御前会議と、引き続き開かれた閣議の記載で終わっています。「本土決戦」を唱えてきた阿南は、最終的には「終戦の詔書」に同意し、8月15日未明、陸相官邸で自決しました。

当館所蔵になってからは、今回が初めての展示です。

※メモ帳は東京会場後期(10月19日～11月2日)に展示し、日誌の8月14日部分は東京会場前期(10月5日～17日)と関西会場で展示します。現物を展示しない期間は、パネルでの展示になります。



1945

米軍投下ビラ

昭和20(1945)年7月、8月
【憲政資料室収集文書 1235】

敵の戦闘意欲をそぐ心理戦の手段のひとつとして、戦地でビラが撒かれました。日本が制空権を失ってからは本土にもたびたび撒かれています。

下は、比島(フィリピン島)・サイパン・硫黄島・沖縄を踏みつけながら進軍する米軍。もはや九州・四国・本州に上陸するのは時間の問題だと実感させられます。実際の地形に無頓着な地図ですが、硫黄島には摺鉢山らしきものが描かれています。日本軍が“絶対国防圏”内としてきたサイパン・硫黄島・沖縄を失うたびに「一つの島に過ぎない」と言い訳してきたと揶揄し、「本土も亦今一つの島に過ぎない」と脅しています。

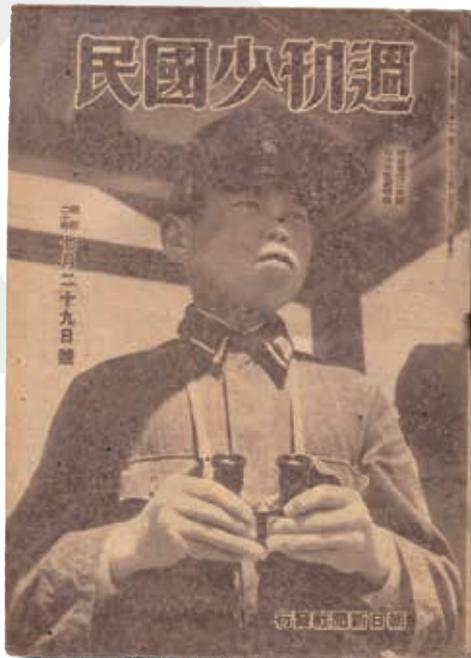
右は空襲予告のビラ。標的となる各都市名が書かれています。戦後間もなく空襲の効

果を調査分析するために来日した米国戦略爆撃調査団の最終報告書¹によれば、空襲予告ビラは3種類、総計約200万枚以上作成され、7月27日、8月1日、8月4日にそれぞれ撒布されました。

※東京会場前期では下、後期では上を展示。
関西会場では両方展示します。

¹ 米国戦略爆撃調査団資料を、本誌652/653(2015年8/9月)号pp.28-29で紹介しています。





週刊少国民

4巻30号(通号166)昭和20(1945)年7月29日、4巻35/36号(通号171/172)昭和20年9月2日/9日 朝日新聞社【Z32-188】

上が7月29日号、下が9月2日/9日合併号の表紙です。わずか1か月余りで、少年の表情の違いに世相があらわれています。

7月29日号の表紙は「敵機発見に敢闘の少年監視哨員」です。本文中の少年監視哨員のインタビューでは、B29を見つけて報告し、それが撃墜されたときには「憎いビー公(B29のこと)を基地へ帰さず太平洋の波の中へたたき落したんだと思ふと、その晩はひと晩ぢゅう眠れませんでした。」と述べています。

9月2日/9日合併号は復刊第一号。表紙には「食糧増産に流す汗」と題して野菜を抱えた少年の笑顔が、巻頭見開きには皇居の写真と「国体護持」に関する文章、「終戦の詔書」が掲載されています。

※東京会場後期、関西会場で展示。東京会場前期は別の子ども向け雑誌(『少年倶楽部』)の終戦前後の比較を行います。



1945

1945

新生

1号 昭和20(1945)年11月 新生社
【Z051.3-Si16】【VG1-470】

戦後最も早く創刊された雑誌のひとつで、10月18日発売。岡山出身で、商業出版には素人であった文学青年青山虎之助が発行しました。創刊号は36万部を即日完売したとも、書店に並ぶや1時間で売り切れたとも言われており、活字に飢えていた当時の世相がうかがえます。創刊号には室伏高信、尾崎行雄、賀川豊彦、小林一三、正宗白鳥などが名を連ねています。また、室伏や鈴木安蔵が設立した憲法研究会の母体にもなりました。



特集展示 1945—終戦の前後、何を読み、何を記したか

展示会構成と主な出展資料

第1章 戦時中

- ・戦意昂扬（『写真週報』『若櫻』等）
- ・教科書（南方地域で使用された日本語教科書等）
- ・言論活動（『言論報国』）
- ・生活（『決戦食生活』等）
- ・米軍投下ビラ
- ・政治家・軍人の日記（高木惣吉、大木操、島内志剛、阿南惟幾^{ゆきたか}）

第2章 8月15日前後

- ・終戦の関係で刊行日がずれた本
- ・終戦後に修正がほどこされた紙芝居
- ・婦人雑誌、子ども向け雑誌の終戦直前と直後の号の比較

第3章 戦後

- ・終戦の解放感（吉田茂書簡等）
- ・戦争責任と軍の解体（下村定日記等）
- ・アメリカへの関心（『マッカーサー元帥』『英語会話の手引』等）
- ・民主主義の萌芽（憲法研究会「憲法草案要綱」等）
- ・世相とジャーナリズム（『旋風二十年』『新生』『太平』等）

※ 展示替え、展示箇所の変更を行います。

東京 2015年10月5日(月)～11月2日(月)
9:30～19:00 (土曜日は17:00終了)

※日曜日・祝日・第3水曜日(10月21日(水))休館
(前期)10月5日(月)～10月17日(土)
(後期)10月19日(月)～11月2日(月)

国立国会図書館 東京本館 新館ホール

※入館手続きが必要です。展示観覧のみの場合は新館入口で「当日利用カード」の作成をお願いします。
※15歳以下で観覧ご希望の方は、事前に下記までお問い合わせください。

国立国会図書館 利用者サービス部 サービス企画課 展示企画係
電話:03-3506-5260(直通) 電子メール:tenji-kikaku@ndl.go.jp

関西 2015年11月13日(金)～11月28日(土)
10:00～18:00

※日曜日・祝日・第3水曜日(11月18日(水))休館
ただし、11月15日(日)は開催。

国立国会図書館 関西館 大会議室

※展示観覧のみは入館手続き不要です。
国立国会図書館 関西館 総務課 電話:0774-98-1224(直通)



国立国会図書館で使用している和紙の一部

和紙、大活躍！！

図書館資料を和紙でなおす

はじめに

平成 26 年 11 月 27 日、日本の伝統的な手漉き和紙技術（石州半紙^{せきしゅうばんし}、本美濃紙^{ほんみのし}、細川紙^{ほそかわし}）がユネスコの無形文化遺産に登録されるという嬉しいニュースが日本列島をかけめぐりました。1000 年を超える歴史を持つ優れた伝統技術が世界中から脚光をあびた瞬間でした。

みなさんは和紙と聞いて何を思い浮かべますか？身近に使われている和紙ってどんなものでしょうか？文字を書き絵を描く材料としてはもちろんのこと、障子、ふすま、屏風など家屋の一部をなすものや、うちわ、扇子など涼を得るためのもの、千代紙の折り紙、凧。古くは、提灯、行燈といった照明器具や、柿渋や油を塗って防水性を持たせた和傘など、日本では古くから、暮らしに身近な素材として、和紙を実に多彩に利用してきました。現代でも、和紙は多様な分野で使われています。筆者の最近の体験では、忘年会の一品で「紙鍋」が IH クッキングヒーターの上にのせられていたのには驚かされました。必ずしも伝統的な手漉き和紙ではありませんが、これも和紙の利用の一つであろうと思います。

さて、このように多方面に利用されている和紙ですが、国立国会図書館でも、「和紙は必需品です。」といったら不思議に思われるでしょうか？

国立国会図書館と和紙

国立国会図書館には、所蔵資料の保存・修復を専門に行う部署として資料保存課があります。資料が劣化・破損しないようさまざまな対策をとっていますが、古いものや利用の多いものはどうしても傷んでしまい、修復する必要が出てきます。紙資料の修復の材料として欠かせないのが、実は和紙なのです。ここでは、当館でどのように和紙が使われているのかをご紹介します。

日本各地ではさまざまな和紙が生産されており、それぞれに原料や製法の違いなど、長い歴史のなかで培われた特徴があります。写真1をご覧ください。ここは、ふだん使用する多種類の和紙を収納している場所です。左の年代物のタンスは、帝国図書館(1897-1947)から引き継いだものを利用しています。ここに収められているのはユネスコの無形文化遺産になった石州半紙(島根県 以下産地を付記)、本美濃紙(岐阜県)、細川紙(埼玉県)はもちろんのこと、^{えちぜんほうしよし}越前奉書紙(福井県)、^{うだがみ}宇陀紙(奈良県)、^{みすがみ}美栖紙(奈良県)、^{ごかやまがみ}五箇山紙(富山県)、^{やめがみ}八女紙(福岡県)、^{とさてんぐじょうし}土佐典具帖紙(高知県)、その他あらかじめ色が染められている豊富な色数の色和紙などなど……日本産の和紙のごく一部ではありますが、修復に必要な種類を揃えています。その一例が、前ページの写真です。それぞれの和紙の厚さは1種類で



はありません。各和紙ごとに数種類の厚みを用意しています。手漉きのものが主ですが、たとえば極薄の典具帖紙(写真の上の2枚。文字の上から貼っても、文字が透けて見えるほどです。)など、機械漉きの和紙もあります。修復する資料の厚さやなおす箇所、修復方法などにより、これらの中から最適なものを選んで使っています。

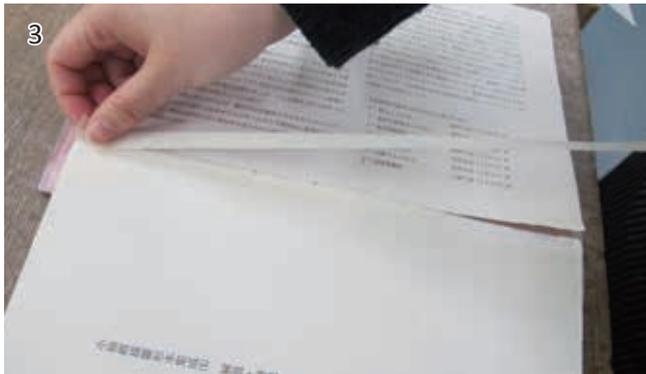
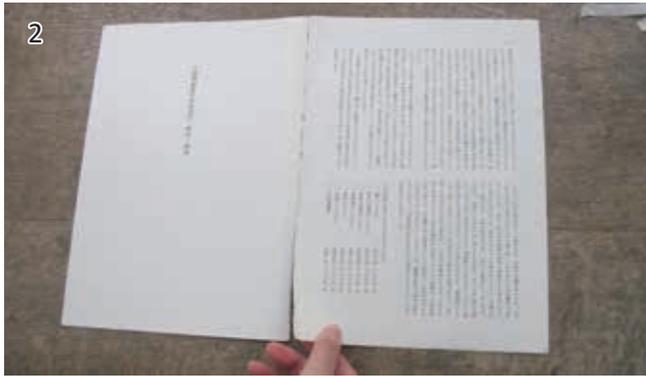
和紙の特徴

さて、みなさんの中で「そもそも和紙ってなに？」と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

いくつかの辞書によれば、和紙とは明治初期に洋紙に対して生まれた用語で、おもにコウゾ(楮)、ミツマタ(三桠)、ガンピ(雁皮)の3種類の植物を原料とする紙、といえます。和紙の大半を占めるのがコウゾを原料としたもので、当館で使っている和紙もそのほとんどがコウゾ100%です。和紙は洋紙よりも紙の繊維が長く、コウゾは特に繊維の長さが1センチ近くあるので、しなやかで薄く、とても丈夫です。和紙を修復作業で使用する大きな理由の一つが、この繊維の長さ由来する「丈夫さ」です。また、和紙は1000年以上前から使用されてきた歴史があります。正倉院に奈良時代の和紙が残されている例があるように、適切な環境で大切に保管すれば、長く後世に伝えてゆくことができます。

洋装本

さて、前置きが長くなりました。国立国会図書館での和紙の使用例を見ていきましょう。まず、明治期以降の洋装本の修復作業の一例をご紹介します。前述した和紙の優れた特徴を生かし、洋紙の修復に



も和紙を使います。接着剤にはデンプン糊を使用し、修復した後も少量の水分を与えることで和紙をはがすことができるようにします。修復前の状態に戻したいときや、将来もっと良い修復方法が見つかったときのためにも、修復前の状態に戻すことができる方法をとっています。

洋装本の綴じにはいろいろの種類があります。写真2は糸綴じの資料です。本の中身は「折丁」とい

う複数の紙を重ねて折ったもので構成されています。糸綴じとは、折丁の折り目の部分を糸でかがって綴じる方法です。この本は、折り目が切れてしまっており、このままでは糸で綴じなおすことができません。そこで、写真3のように带状にした和紙を切れた部分に貼って破れをなおすと同時に補強し、もう一度糸で綴じなおします(写真4、5)。そして表紙をつければ、またもとの形に戻すことができます。



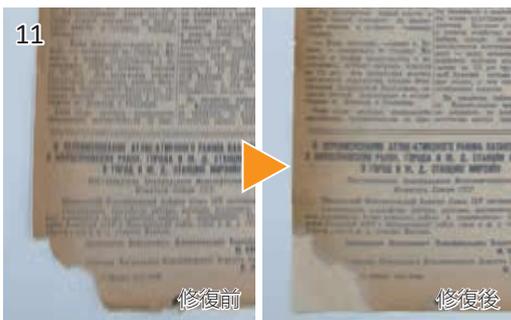
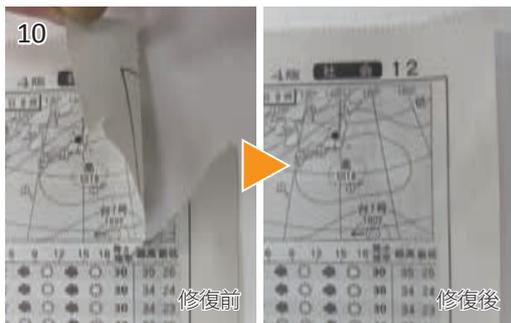
写真6～9は、写真が貼りこまれた大正期の冊子です。表紙の背が破れており、綴じに使われているホチキスが変色して、その周りも破れてきています(写真6)。また、^{あいし}間紙(写真を覆う薄い紙)も劣化して変色していました。まずホチキスはずして表紙を本体からはがし、間紙を薄い和紙に替え(写真7)、綴じしろに和紙を貼った上から小さな穴をあけて麻糸で綴じなおします。そして表紙の破れを表裏から、目立たない色の和紙を選んでつくろい(写真8)、表紙と本体を綴じしろの和紙部分で接着して仕上げました(写真9)。

新聞

新聞は紙が弱く傷みやすいものです。少し破れてしまった新聞は、破れた個所を表と裏から典具帖紙で補修します(写真10)。典具帖紙は非常に薄い和紙ですので、このように画像や文字などの情報を隠すことなくなおすことができます。

また、写真11のように一部が欠けてしまった新聞は、本紙と似た色と厚さの和紙を選び、欠けた部分よりわずかに大きめにちぎり、デンプン糊で貼りつけます。

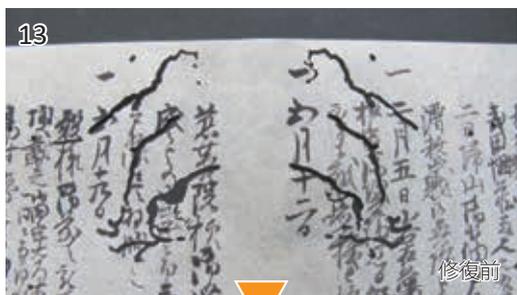
「和紙をちぎる」と表現しましたが、私たちは和紙を刃物で切るのではなく、ちぎって使うことがよくあります。水で少し湿らせてちぎると、次ページ写真12の上のように繊維の長い毛羽^{けぼ}ができます。この特徴を利用して、破れたり切れたりしている箇所^{箇所}の補修に使います。両側に毛羽を出した細い帯状の和紙を、破損した箇所^{箇所}の裏側にデンプン糊で貼り付けてつなぎ合わせることもあります。刃物で切った和紙(次ページ写真12の下)より本紙との段差が出ないのでよくなじみ、また、毛羽で接着面積が増えているのでしっかり貼り付けることができます。



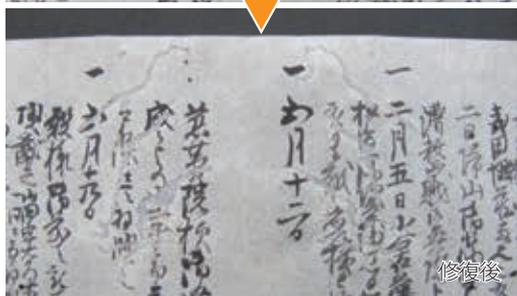
和装本

写真13は、虫に食べられて穴だらけになった幕末期の日記です。和紙に墨で書かれています。国立国会図書館に所蔵される前に、このように虫に食べられたり、ネズミにかじられたり、破れたり、劣化してしまった資料があります。虫に食べられて穴があくと、文字が読みにくくなったり扱いにくくなったりします。そのようなものは、資料の紙に似た厚さや風合いの和紙を選び、穴より一回り大きく和紙をちぎり、デンプン糊で裏側から貼り付けて穴をつくらせます。穴が和紙でふさがらただけでとても読みやすくなり、安心して手に取ることができます。

古い資料は、時間の経過とともに古びた茶色い色に変化しています。また、お経のように紙がもともと黄色く染色されていることもあります。そんなときは、資料の色に合わせて和紙を植物染料で染めて補修に使うこともあります(写真14)。ヤシャ、チョウジ、マテバシイなどの植物を煮出すと、様々な色の染色液ができます。この染色液を含ませた刷毛で和紙を染めていきます(写真15)。和紙は薄くても強靱で柔軟性も兼ね備えていますので、染めた後は洗濯物のように吊るして乾燥させています(写真16)。



修復前



修復後





地図

国立国会図書館には、冊子ではなく一枚物の地図もたくさんあります。一枚物は広げた状態で保管していますが、当館で所蔵される前に折り畳まれていたものは、折り目が劣化して裂けていることがよくあります。劣化した地図には、裏側全面に一回り大きい和紙を貼り付けて本紙全体を和紙で補強する「裏打ち」という処置を行います（写真17）。裏打ちをした後、「仮張り板」（壁に立てかけた茶色い板）で乾燥させます（写真18）。

この仮張り板は表具の世界で欠かせない伝統的な道具で、和紙できています。障子の骨組みのような木製の下地に強靱な和紙を10層程度貼り重ね（写真19）、表面に柿渋を塗ったもので（写真20）、大きくても軽くて扱いやすく、柿渋によって丈夫さが増し、防水性もあります。ここに、裏打ちした資料を湿らせて十分に伸ばしてから、周囲の和紙の余白に糊をつけて仮張り板に貼り付けると、次第に乾燥し

て縮んできます。周囲は糊で固定されていますので、完全に乾燥すると太鼓の皮を張ったようにピンと伸びて、平らになります。乾燥後は仮張り板から剥がして、和紙の余白を切り落とします。仮張り板は、大きい資料でも場所を取らずに平らに乾燥させることができる大変優れた道具です。

おわりに

ここまで、国立国会図書館における、和紙を使用した資料の修復例をご紹介いたしました。和紙という伝統的で優れた素材が、さまざまな図書館資料の保存・修復に必要不可欠ということがわかりただけなことと思います。和紙は日本のみならず、海外の修復現場でもたいへん重用されています。

これからも、図書館の資料が末長く利用されるよう、和紙を使った修復を続けてまいります。

（収集書誌部資料保存課）

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

安定化処理

大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト Stabilization processing

津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会ほか 編・刊
2014.12 255p 30cm <請求記号 K275-L163>

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。それに伴い沿岸部に押し寄せた大津波は、あらゆるものを飲み込み未曾有の被害をもたらした。濁流が押し寄せる衝撃的な映像は、今でも多くの人の記憶に焼き付いていることだろう。生活の基盤となる街そのものが甚大な被害を受けるなか、博物館や美術館、図書館も例外なく津波にさらされ、郷土に受け継がれてきた絵画や古文書なども容赦なく海水を浴びた。本書はそうした資料を救おうと尽力した人々による文化財レスキュー活動の記録であり、各被災地での資料救援活動の様子と、現地で実際に行われた安定化処理法・修理方法についての事例紹介が主な内容となっている。

この文化財レスキューは、①一次レスキュー（安全な場所への資料の移動）、②二次レスキュー（被災資料への必要最低限の処置）、③本格修理という3段階で進められた。この二次レスキューの主要な活動にあたるのが、本書のタイトルにも掲げられている「安定化処理」である。津波をかぶってしまった資料は、海水に含まれる砂や雑菌、塩分、湿気などによって、カビや錆などが生じやすい非常に不安定な状態となる。そのような資料内部に入り込んだ劣化因子を洗浄・除菌によって取り除き、十分に乾燥させることで資料を再び安定した状態に戻す作業が「安定化処理」であり、本書では被災した文化財

を救う重要なステップとして位置付けられている。

またその具体的な方法についても、文書や油絵、染織品、写真、土製の玩具や考古金属資料、自然史標本など、被災資料の材質や形態

ごとに、本書の半分以上にわたって丁寧に解説されている。限られた資料と作業スペースの中でのやりくり、水に弱い資料の洗浄・脱塩方法の研究など、多数の専門家がそれぞれの課題と向き合いながら、当時の環境下で資料にとっての最善の方法を模索した様子がひしひしと伝わってくる。決して確立した方法が用意されていたわけではなく、この地で、この事態に直面した人々が試行錯誤の末に導き出した結果だ。

本書のように被災地の実際に即して書かれた技術書は少ない。特に脱塩処理に関する項目は充実しており、国内外を問わず有事の際には力強い一助となるだろう。震災から4年が経過した現在も修理作業は各機関にて継続して進められているが、安定化処理すら困難なものも多く、手つかずの状態のまま冷凍保存されているという。安定化処理技術は未だ発展途上の分野である。本書でまとめられた手法を礎に、さらなる研究の発展と被災資料の回復、ひいては被災地の文化的復興を願う。

（収集書誌部資料保存課 廣川 明日菜）



※入手に関するお問い合わせ先
岩手県立博物館総務課ミュージアムショップ担当
電話 019(661)2831(代表)

知を活かす

英国図書館の新ビジョン

LIVING KNOWLEDGE: THE BRITISH LIBRARY'S FUTURE VISION



Custodianship

We build, curate and preserve the UK's national collection of published, written and digital content



Research

We support and stimulate research of all kinds



Business

We help businesses to innovate and grow



Culture

We engage everyone with memorable cultural experiences



Learning

We inspire young people and learners of all ages



International

We work with partners around the world to advance knowledge and mutual understanding

英国図書館は、創設50周年の2023年に向けての新たなビジョン“Living Knowledge: The British Library 2015-2023”¹を、2015年1月に発表しました。新ビジョンに基づく英国図書館の今後の取り組みを広く紹介し、日本の図書館における今後の方向性の参考とするため、国立国会図書館は、平成27年6月2日に講演会を開催しました。

第一部では、ロリー・キーティング英国図書館長が講演を行い、第二部では、参加者からの質問をもとに、田村俊作慶應義塾大学名誉教授がキーティング氏にインタビューを行うという形式で進められました。キーティング英国図書館長は、2012年9月の英国図書館長就任以前は、英国放送協会（BBC）のアーカイブ・コンテンツ部長であり、メディアに在籍していた経験による視点を活かした取り組みも行われているようです。

本稿では、キーティング英国図書館長の講演会を中心に、英国図書館の新たなビジョンについてご紹介します。



ロリー・キーティング
英国図書館長

2012年9月から現職。電子納本の法制度化による大規模なデジタル資料収集の実現、英国公著作権管理運用業務の英国図書館への移行等一連の主要事業を監督する。英国図書館長就任以前は、英国放送協会(BBC)のアーカイブ・コンテンツ部長。

英国図書館とは

英国図書館の起源は、1753年の大英博物館の設立に遡ります。博物館設立当初から、写本・刊本部門の蔵書は重要なコレクションとして位置づけられていましたが、1814年の著作権法改正によって納本制度が制定され、蔵書の充実が進みました。それに伴い、書庫と閲覧室の増築が図られ、1857年には有名な円形の閲覧室が開室しました。この閲覧室は、カール・マルクスやチャールズ・ディケンズ、日本人では夏目漱石も利用したことで知られています。

1969年に設置された国立図書館委員会による勧告に基づき、1972年に英国図書館法が成立、1973年7月に施行され、英国図書館が設立されました。1998年にセントパンクラス本館が開館し、現在に至っています。

職員数は1,495名、年間予算は1億1,888万ポンド（約210億4,176万円）であり、1億1,368万冊を超える蔵書数を誇っています²。ロンドン市内のセントパンクラス本館と、ウェストヨークシャー州のボストンスパ館の2館で構成されており、近年では、関連機関と協力しながら資料のデジタル化やデジタルアーカイブの構築、デジタル資料の法定納本の強化などを推進しています。

“Living Knowledge: The British Library 2015-2023” 策定に至るまで

2010年9月、英国図書館は“2020 Vision”³を発表し、「2020年に英国図書館は世界の情報ネットワークの先駆的ハブとなり、所蔵資料・専門性・連携を通じ、経済・社会・文化のために知識を前進させる」というビジョンを示しました。また、2011年2月には、“2020 Vision”の内容を2015年までの戦略的優先事項として5つに取りまとめた“Growing Knowledge: The British Library’s Strategy 2011-

2015”⁴を発表しました。

“2020 Vision”は、急速な変化を続ける技術、情報利用者からの高まる期待と情報提供源の多様化、教育と学術的コミュニティにおける協同的アプローチの増加といった傾向を踏まえて作成されました。5年が経過した現在においても、デジタルサービスに対する利用者への期待は高まり、また、データの多様化やオープンアクセス化が進む中で、図書館が果たすべき役割は拡大しています。

このたび新たに発表されたビジョンは、こういった背景を踏まえ、“2020 Vision”の5つの戦略的優先事項を改訂する意図で2013年から検討を重ねてきたものです。2015年は、ちょうど5つの戦略が終了する年であると同時に、英国図書館の貴重なコレクションの一つであるマグナ・カルタ発布800年記念の年でもあり、まさに発表に適した年でした。

1 <http://www.bl.uk/britishlibrary/~media/bl/global/projects/living-knowledge/documents/living-knowledge-the-british-library-2015-2023.pdf>

2 British Library Annual Report and Accounts 2014/2015 (<http://www.bl.uk/aboutus/annrep/2014to2015/annual-report2014-15.pdf>)の数値から。

3 <http://www.bl.uk/aboutus/stratpolprog/2020vision/2020A3.pdf>

4 <http://www.bl.uk/aboutus/stratpolprog/strategy1115/strategy1115.pdf>

英国図書館設立以前の大英博物館の円形閲覧室



「第一部 ロリー・キーティング英国図書館長による講演」から

“Living Knowledge: The British Library 2015-2023”は、英国図書館の知的資産によって公的価値を生み出すため、以下の6つの目標を枠組みとしています。

1 管理 英国図書館は、国内の出版物、著作およびデジタルコンテンツを国のコレクションとして構築し、管理し、保存します。

1 Custodianship

We build, curate and preserve the UK's national collection of published, written and digital content

6つの目標の中で核となる目標です。英国図書館は法定納本図書館であり、毎月、本などの物理的媒体は800メートル分、デジタル資料は6.8テラバイト分、資料が増え続けています。英国図書館の蔵書数は、蔵書の定義によって異なりますが、20億ページを超える英国国内ウェブコンテンツを合わせ1億5千万点から2億点にのぼります。この10年、英国図書館では国内新聞コレクションのデジタル化と保存を進めてきましたが、次は音楽録音資料の保存を検討しています。音楽録音資料は月4,000点のペースで増加しており、42種類もの媒体(レコード、テープ、ディスクなど)に収められています。650万点の所蔵資料のうち多くは、15年以内に技術の陳腐化の

ため再生できなくなり、貴重な録音音源は永遠に失われてしまいます。そこで2015年1月、英国の音声遺産を保存するためのプロジェクト「Save Our Sounds」⁵を立ち上げ、資金を募ったところ、Heritage

Lottery Fundから950万ポンド(17億7千万円)の資金提供の申し出がありました。

また、スコットランド国立図書館、ウェールズ国立図書館、オックスフォード大学図書館、ケンブリッジ大学図書館、アイルランドのトリニティ・カレッジ図書館といった英国の他の法定納本図書館と協力し⁶、ポーンデジタル資料の包括的収集を、英国全体のウェブサイトのアーカイブ化も含めて実現化していく予定です。ポーンデジタル資料の法定納本は2013年4月に始まったばかりです。コレクションの規模拡大、使いやすさの改善、長期保存のための資金の確保がこれからの課題であると考えています。

2 研究 英国図書館は、あらゆる種類の研究の支援および研究の活性化に取り組みます。

2 Research

We support and stimulate research of all kinds

英国図書館は英国の研究基盤の中心であり、英国の経済を活性化してきました。日々変化する学者や市井の研究者のニーズに合わせて、施設とサービスを変化させていきたいと考えています。また、研究者がデータを広く利用できるよう、英国図書館自らがデータ解析を行うことも検討しています。2014年12月、英国図書館内にアラン・チューリング研究所(Alan Turing Institute)を設立する計画が発表されました。4,200万ポンド(約74億円)の公的資金を投じて設立されるこの研究所では、コンピュータ科学やビッグデータの解析などが行われる予定であり、英国図書館の今後の機能に大きな影響を与えることが期待されています。

3 ビジネス 英国図書館は、ビジネスの革新・成長を支援します。

3 Business

We help businesses to innovate and grow



2006年にセントパnkラス本館に設立されたビジネス・知的財産センター(Business & IP Centre)⁷は、起業家や発明家、デザイナーによるアイデアの創出と保護、商業化の支援を行ってきました。毎年平均550の事業、1,200人の雇用の創出支援をし、公的資金の投資1ポンドあたり、8.8ポンドの経済効果を生み出しました。英国図書館は、このビジネス・知的財産センターをバーミンガム、リーズ、リバプール、マンチェスター、ニューキャッスル、シェフィールドの市立図書館にも開設しており、今後10年以内に20か所に開設したいと考えています。

4 文化 英国図書館は、あらゆる人々に記憶に残る文化的経験を提供します。

4 Culture

We engage everyone with memorable cultural experiences

文化的・芸術的価値の高い英国図書館のコレクションを、英国図書館だけでなく英国内、さらには世界各国とも共有していきたいと考えています。そのためにも、イベントや展示会、講演会等、多くの人に英国図書館のコレクションを楽しんでもらう機会を増やす予定です。

5 学習 英国図書館は、若者とあらゆる年齢の学習者の関心を引き起こします。

5 Learning

We inspire young people and learners of all ages

近年、学習目的で来館する子どもや若者の利用を促進するための検討を重ねており、その結果、2014年には生徒、学生の来館者が過去最高の3万2,800人になりました。また、英国図書館のウェブサイトの中でも、Learning⁸のページは最もよく利用されており、当初考えていた利用対象者以外にも幅広く利用されています。英国図書館は、学習支援は生徒、学生だけでなく、幅広い年代に対して行う必要

があると考えており、今後は増加する来館者に備えるため、館内提供サービスの規模の拡大と内容の拡充に取り組む必要があります。オンラインサービスでは、英文学の主要作品を提供するDiscovering Literature⁹のページの充実を優先的に進めることを考えており、英文学史を網羅することで世界中の学習者の評価を確立していくことを目指しています。

6 国際協力活動 英国図書館は、世界中の関係機関と連携し、知識と相互理解を促進します。

6 International

We work with partners around the world to advance knowledge and mutual understanding

これは、同じ価値観と使命を共有する図書館の国際的なコミュニティを、強力で柔軟なネットワークをベースに実現していくことです。学問は常に言語、政治、信仰、地理的な垣根を越えようとしてきましたが、デジタル時代がこれを容易にしました。Europeana (ヨーロッパアーナ)¹⁰やDigital Public Library of America (米国デジタル公共図書館)¹¹などは、各国・各地域に散在するコレクションをまとめて提供するものです。英国図書館にもまた、他機関と共に果たすべき役割があります。それは、英国図書館が守る知的遺産への世界中からのアクセスを増やすため、デジタル化資料の積極的な提供など、デジタル技術の力を活用する機会と責任能力を高めることであり、他機関とのパートナーシップを通じて実現したいと考えています。

5 <http://www.bl.uk/projects/save-our-sounds>

6 Legal Deposit Libraries Act 2003に基づく。

7 <http://www.bl.uk/bipc/>

8 <http://www.bl.uk/learning>

9 <http://www.bl.uk/romantics-and-victorians>

10 <http://www.europeana.eu/>

11 <http://dp.la/>

「第二部 ロリー・キーティング館長へのインタビュー」から

講演会の後半では、田村俊作慶應義塾大学名誉教授を聞き手に迎え、キーティング館長へのインタビューが行われました。

おもな質疑は以下のとおりです。

——資料は、英国内のほかの納本図書館と連携しながら収集しているのでしょうか。それとも英国図書館が単独で収集しているのでしょうか。

他の5つの法定納本図書館とは昔から連携しており、特にデジタル分野では密接な連携をしています。安全性と柔軟性を担保するため、単一のシステムを使って収集、保存、アクセス提供を行っています。その中で、英国図書館は技術的な面で主導権を握っています。ただ、サービスの提供については各館それぞれで行っています。

——紙媒体と電子媒体の両方が刊行された図書の場合、両方とも納本してもらっているのでしょうか。

同一資料が紙媒体と電子媒体で刊行された場合、法律によるとどちらか片方を納本すればよいことになっています。どちらが良いかは分野によっても異なるため、事前に各出版者と調整してどちらか一方、あるいは両方納本してもらっています。現在は紙媒

体と電子媒体が混合していますが、今後の方針について検討していく必要があります。

——研究データの収集と提供については日本でも大学図書館で話題となっており、研究力強化のため研究データの整備をはじめようとしています。英国図書館は研究データについて大学図書館と協力しているのでしょうか。

英国図書館では積極的に研究データに関する支援を行っており、データセット自体に一意な識別子を付与することで、研究データの恒久的な引用を可能にしています。共通の標準を作るといっても、各大学が個々のリポジトリでデータセットを保存、管理しているため、英国図書館は単に保存、管理されたデータセットの調整を行っていることとなります。ただ、先述のアラン・チューリング研究所の設立によって、今後この体制は変わる可能性があります。

——英国の公共図書館では、以前からビジネス支援サービスを熱心に行っていますが、英国図書館がそういった公共図書館にビジネス支援サービスを提供する狙いは何ですか。

英国図書館におけるビジネス・知的財産センターの成功から、この取り組みを地方都市で共有できる仕組みを作りたいと考えました。実験的に6つの図書館と協力して行ってきましたが、新しい雇用やビジネスの創出に寄与しており、地方経済を刺激し、図書館の取り組み自体にもプラスの効果を与えています。このプロジェクトが始まって2年が経ちましたが、利用者の関心は高いので、地域や中央政府への知名度をさらに浸透させていこうと思っています。

——英国図書館は数多くの貴重書や豊かな特殊コレクションによって世界的に有名です。近年はそうしたコ



田村俊作慶應義塾大学名誉教授によるインタビュー

レクションを活用することに積極的に取り組んでいると聞いています。具体的にどのような形で特殊コレクションを扱っていこうと考えているのでしょうか。

アーティスト、作家、パフォーマーなどによる英国図書館の豊かな特色あるコレクションに関連した展示、対談、パフォーマンスなど、思いもつかない独創的な発想を実現したいと思います。

——学習支援について、今までの英国図書館のサービス対象は、主に研究、学術、ビジネス、文化であり、子ども向けという印象はありませんでした。英国図書館は国立図書館なので、国民全体へのサービスという意味では子どもを対象とすることを当然のことと考えているのでしょうか。それとも学習支援は今までになかったことなので、新たな目標設定があるのでしょうか。

これまでも行ってきたことであり、特に新しいことではありません。いわゆる児童サービスではなく、生徒が博物館に行くように、直に英国図書館のコレクションを体験したり、授業の中でデジタル化した文学作品の手稿などに触れる機会を提供していくことを目指しています。

——Europeana（ヨーロッパアーナ）とはこれからどのように関わっていくのでしょうか。

英国図書館には、Europeanaに初期段階から携わっている2名のスタッフが勤務しています。また、第一次世界大戦を記念した電子展示会「Europeana 1914-1918」¹²にも積極的に関わっています。例えば、英国の国民が所持している第一次世界大戦に関する物をボストンスパ館に持ち込んでもらい、それをデジタル化して公開するというも行いました。このような連携は、資料のデジタル化という取り組みがなかったら実現しなかったことです。

——BBC時代の経験はどのように活かしているのです

うか。

英国図書館とBBCには、国の機関としての自覚と責任を持って取り組むという類似性があります。また、BBCではクリエイティブなことを考え出し、市民に伝えていましたが、この経験は英国図書館でも大いに役立っています。

——ロンドンオリンピックの時に英国図書館がどう貢献したかについてお聞かせください。

英国図書館はオリンピックをテーマとした展示を文化プログラムの一環として行い、成功を収めました。オリンピックの際のセキュリティや経費等、課題は色々ありましたが、とても刺激的で感動的な夏になりました。オリンピックはスポーツだけでなく、文化、教育、都市における生き方について考える大きな機会となると思います。

終わりに

国立国会図書館では、平成24年7月に「私たちの使命・目標2012-2016」¹³を策定し、国立国会図書館の果たすべき使命と、その使命の下に掲げた6つの目標に、5年間にわたって取り組んでいます。新たな目標を策定する時期を迎えるにあたり、英国図書館の新ビジョンは、当館にとっても参考となることでしょう。

（総務部支部図書館・協力課）

講演会の資料を、以下のURLに掲載しています。
<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20150602lecture.html>

¹² <http://www.europeana1914-1918.eu/en>

¹³ <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/mission2012.html>



ビッグ・ベン



エディンバラ城

世界図書館紀行

英国図書館・
スコットランド国立図書館

奥村 牧人



英国図書館の成り立ち

英国図書館は、1億5,000万点以上の所蔵資料を有し、年間180万人以上の利用者が訪れる世界最大級の国立図書館である。同館は、1972年英国図書館法に基づき、大英博物館の図書館部門、国立中央図書館そして国立科学技術貸出図書館等が統合し、1973年に国立図書館として創設された。その後、同図書館が、各施設の蔵書を集め統合し、セントパンクラスで開館したのは1998年のことである。新図書館の建設までは紆余曲折があった。大英博物館の隣接地のブルームズベリーに新館を建設する当初の構想が、歴史的な建築の保存を訴える地区住民の反対にあい、別の建設地の選定を余儀なくされたのである。新図書館の設計責任者である、サー・コリン・セント・ジョン・ウィルソンは、遅々として進まない建築プロジェクトについて皮肉を込めて「三十年戦争」と呼んだ。結局、建設地、監督官庁、計画の規模等の絶え間ない変更により、構想から完成まで実に36年の年月を要した。セントパンクラス館の建設は、論争を巻き起こした規模と完成までに費やした年月の長

さという点において、セントポール大聖堂建築以来の一大建築プロジェクトと言われる。

当初の建設地と異なる場所ではあるが、現在の英国図書館が建つセントパンクラスという場所は、同館に大きな恩恵をもたらしている。第一は、図書館へのアクセスの良さである。市内の主要なターミナル駅からのアクセスがよく、ユーロスターが乗り入れ、数多くのショップが軒を連ねるセントパンクラス駅(写真1)、東海岸の都市からの玄関となるキングスクロス駅(写真2,3)、西海岸の都市からの玄関であると同時にバスターミナルもあるユーストン駅のいずれの駅からも徒歩圏内にある。第二は、将来的に発展の余地がある場所に立地しているという点である。歴史的な地区であるブルームズベリーには将来的な拡張を見込むほどの広さはなかったが、セントパンクラスには施設の増設など将来的に開発が可能な土地があった。実際、図書館北側の土地を活用し、セントパンクラス駅とそれに付随する商業施設から図書館に直接アクセスできるようにする案が検討されている。



1



2



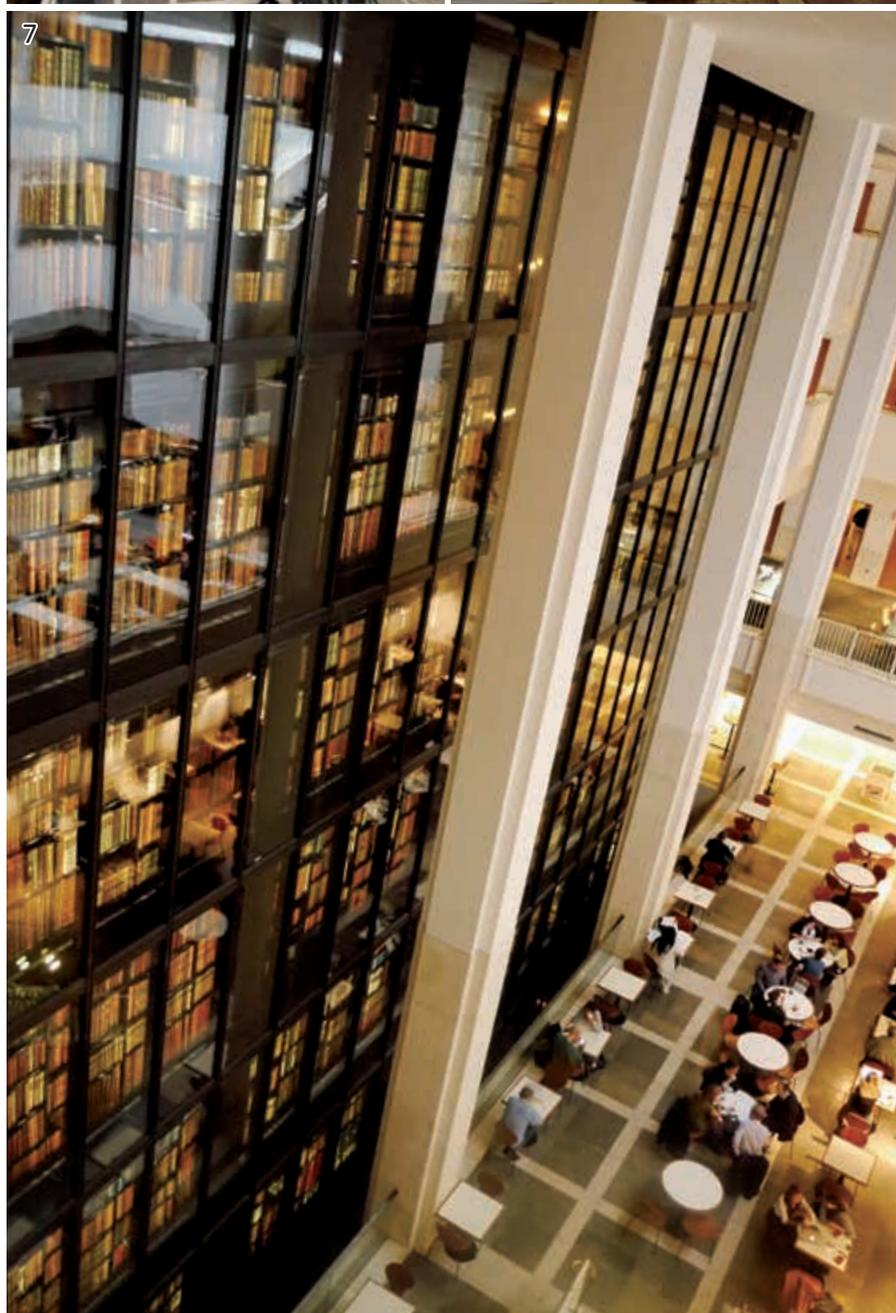
3

英国図書館は、このセントパンクラス館を本館とし、ウェストヨークシャー州リーズ市にあるボストンスパ館との2施設で運営を行っている。ボストンスパ館は、国立科学技術貸出図書館を前身とし、英国図書館の資料貸出部門として発展した。現在は英国図書館の資料提供サービス (British Library Document Delivery Service: BLDDS) の拠点となっている。これらの2施設に加えてロンドン郊外のコリンデイルに、新聞資料を所蔵する施設があったが、2013年11月に閉館し、同施設所蔵の新聞資料は翌年11月までにボストンスパ館へ移送された。

セントパンクラス館

周辺の主要駅から徒歩圏内の好立地にあるセントパンクラス館の南側は、人の往来が多く賑やかなユーストン通りに面している。通りの歩道からゲートをくぐると、建物の前に大きな広場があり、エドゥアルド・パオロツィ作の堂々としたニュートン像が目に入る。広場にはカフェテリアがあり、待ち合わせ場所としても最適である (写真4)。

建物を入ると、吹き抜けの開放的なエントランスホールが広がっている (写真5)。入口左側にはギャラリーやショップがあり、閲覧室を利用しない一般利用者にも門戸が広く開かれている (写真6)。ホールやギャラリーなどの公共スペースは、子ども向けワークショップやイベントなど様々な用途に使われている。ショップには書籍やオリジナルグッズのほか、特別展示のテーマに合ったグッズが陳列され、訪問記念のお土産には事欠かない。建物の入口ホールを通り過ぎ、建物の中心部分に行くと、一面ガラス張りのタワーが見えてくる。この6階建てのガラス張りの建物には、約65,000点のジョージ3世収集のコレクションが収められ「キングスライブラリー」と呼ばれている (写真7)。これら



のコレクション資料は、ジョージ4世の命により、研究者だけでなく一般公衆も閲覧できるようにと国に寄贈されたものである。コレクション資料の大部分は、オンラインの蔵書検索システムを通して閲覧請求し、貴重書・音楽資料閲覧室で閲覧することもできる。

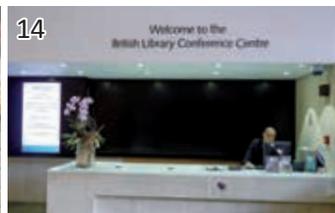
私が訪れたときには、キングスライブラリーを囲むように配置された回廊やカフェテリアで、多くの人が思い思いに時間を過ごしていた(写真8)。ギャラリー、カフェ、ショップそして回廊の多くの自習スペースは、登録利用者しか入室できない閲覧室と異なり、誰もが自由に利用できる場所である。英国図書館利用者の多くは、実はこうした閲覧室「以外の」利用者なのである。

次に閲覧室を見ていこう。英国図書館には9つの主題別の閲覧室があり、閲覧室はキングスライブラリー周囲の回廊の外側に配置されている。利用者は、利用者登録を済ませた後、ロッカーやクロークに荷物や外套を預け、閲覧室の前の職員に利用者カードを提示すれば、各室を利用することができる。閲覧室は、3層構造の立体的な配置により、うまく自然光を取り入れているため、室内は明るく、開放的な雰囲気となっている(写真9)。9つの閲覧室は全体的に統一感のあるデザインであるが、それぞれに特徴がある。ユニークな閲覧室を挙げ

るとすれば、まずはビジネス・知的財産センターだろう。同センターは、ニューヨーク公共図書館の科学産業ビジネス図書館(SIBL)と並んで、日本でも紹介されることの多いビジネス支援の図書室(館)で、2006年に開室した比較的新しい閲覧室である。入口付近には、登録利用者以外も入室することができるラウンジがあり、同センターを活用してうまく起業に結び付けた数々の輝かしい成功事例が展示されている(写真10)。さらに少し進んだところにはセミナールームがある(写真11)。

以前に同センターがあった2つのフロアのうち、3階部分には2014年4月にニュース・新聞資料閲覧室が新たに開室した。同閲覧室では、従来の新聞資料だけでなく、2010年5月から図書館資料として保存されることになったテレビやラジオのニュース番組にもアクセスすることができる。室内も何やら新しさを感じさせるデザインである(写真12)。

ところで英国図書館の閲覧室というと、大英博物館図書室の円形閲覧室を思い浮かべる人もいるかもしれない。1857年に開室されたドーム型の円形閲覧室(p.17参照)は、多くの国立図書館や公共図書館のモデルとなっている。円形閲覧室へのノスタルジーからか、現在のセントパンクラス館の建設の過程において、その存続を求める運動が起こったが、最終的には現在





のような形で閲覧室が設置されることとなった。セントパンクラス館には、主閲覧室（main reading room）と呼ばれる閲覧室はなく、最も大きな閲覧室は、建物の北西部分の2階と3階を占める人文資料閲覧室であり、同閲覧室には閲覧室全体の席数（約1,200席）の3分の1を超える約450の席が備えられている（写真13）。

英国図書館が提供する利用者サービスは、これまで述べてきた、ギャラリー、カフェ、閲覧室の利用にとどまらない。セントパンクラス館には、講演会や館内の研修等のための会議センターが独立した空間として建物の東側にあり、同センターで催される講演会等のイベントは多くの人を引き付けている（写真14）。

ボストンスパ館

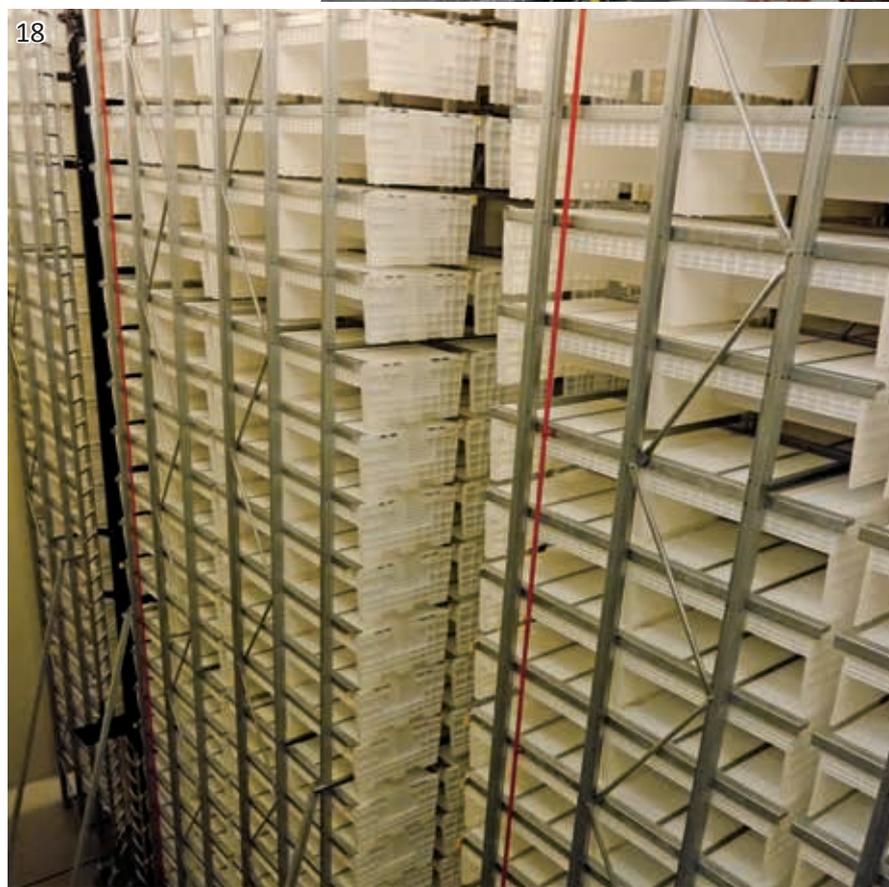
ロンドンのセントパンクラス館の来館利用者サービスは、ボストンスパ館との連携により支えられている。およそ300キロメートル離れたセントパンクラス館とボストンスパ館との間は、資料を搭載したトラック便が運行されており、利用者の求めに応じて、ボストンスパ館からセントパンクラス館の閲覧室に資料が送り届けられる。増加の一途をたどる蔵書の保管場所の確保は、世界の国立図書館が抱える共通課題である。こうした課題に対して、多くの図書館は利用者が集まる本館のほかに遠隔のオフサイト施設を建設し、所蔵資料を分散配置している。一般的に利用頻度の高い資料は本館で所蔵し、そうでないものについては遠隔施設で保管されるが、英国図書館の場合、具体的な資料選定は、各閲覧室のキュレーターと呼ばれる専門職員が行う。

ボストンスパ館は、イングランド中部のリーズ市に位置し、リーズ駅とヨーク駅の中間のややアクセスの困難な場所にある。主要駅と同館を結ぶ公共交通機関は少なく、駅からの移動手

段は車やタクシーに限定される。そのため、乗り合いの車で通勤している職員もおり、私もそのグループに混ざって、ボストンスパ館を訪問することになった。ヨーク駅から図書館までの途中には、英国の田園によく見られる牧歌的な風景が広がり、ロンドンの喧騒と全く異なる雰囲気である。

ボストンスパ館の正面入口を通ると、小さなロビーと利用者登録デスクがある（写真15）。同館は、遠隔サービスの拠点であるが、小規模な閲覧室がある。2014年5月に閲覧室が改装され、室内にはコリンデルの新聞資料閲覧室で使用されていた趣のある閲覧机が設置されている（写真16）。

だが、ボストンスパが誇るべきは、閲覧室でなく、ウェアハウスと呼ばれる最新式の書庫施設である（写真17,18）。オフサイトの資料保



管施設として、高密度、低酸素、機械による自動制御システムを備えた書庫は、実に14万の可動式コンテナから構成され、7つのクレーンにより資料の出納が行われる。コンテナは利用頻度に基づいて移動し、資料の出納が円滑に行われるよう自動制御されている。

ボストンスパ館は、オフサイトの資料保管施設であると同時に、英国図書館の資料提供サービス（BLDDS）の拠点でもある。同サービスは、文献複写、資料貸出、オンライン博士論文提供サービス等の総称である。かつて、文献複写および資料貸出サービスは、国内、海外の利用者を合わせて、約400万件の申込みを受理していた。だが、デジタル資料の増大、資料の提供主体の多様化等の影響を受けて、現在はピーク時の5分の1以下の水準となり、受理件数は約70万件まで減少している。それでも国立図書館が提供する遠隔サービスの処理件数としては世界最高水準にあるとあって差し支えない。

スコットランド国立図書館へ

さて、ボストンスパ館訪問後の次なる目的

地は、スコットランドの首都エディンバラに位置するスコットランド国立図書館である。リーズ駅から特急列車で3時間ほど北に向かうと、エディンバラ・ウェーバリー駅に到着する。エディンバラは、グラスゴーに次ぐスコットランド第2の都市であり、48万人以上の人口を擁する。歴史的な面影を残す景観から観光地としての人気が高く、観光者数はロンドンに次いで英国2番目の多さである。中世の街並みが残る旧市街と18世紀から19世紀中盤にかけて建設された新市街から成り、1995年には新旧市街の両方が世界遺産（文化遺産）に登録された。街の目抜き通りであるロイヤルマイル（写真19）が、旧市街の西端のエディンバラ城から東端のホリールード宮殿（写真20）を結んでおり、ロイヤルマイルから南に少し入ったジョージ4世橋のたもとにスコットランド国立図書館の本館がある。図書館のオフサイト施設であるコースウェイサイド館は本館から南に車で10分程度の距離にある。両施設の間には、スコットランド版忠犬ハチ公のグレイフライアーズ・ポビー（写真21）で知られるグレイフライアーズ教会、スコットランド国立博物館やエディンバラ大学等がある。

スコットランド国立図書館は、1689年に開室した弁護士会図書館を前身とし、1709年著作権法に基づき、英国の法定納本図書館の1つに指定され、以来、英国で出版された全ての出版物について納本を要求する権限を持っている。

本館であるジョージ4世橋館（写真22）は、1937年に起工したものの、大戦中に工事が中断され、戦後の1956年になってようやく開館した。建物の外観は華美なところがなく、同館を設計したレジナルド・フェアリーの言葉を借りるなら「冷厳な静けさ」が漂っている。建物正面部分の上部には窓がないが、これは図書館前の通りの喧騒から閲覧室を守るためである。





建物の入口部分は10層部分に該当し、書庫や事務スペースである1層から9層部分はジョージ4世橋の下のカウゲート通りに下っていくような形の造りとなっている。入口部分の階段を上ると、右手に展示ギャラリー、左手にショップと案内カウンターがある。そこから折り返しの階段(写真23)を上り、重い扉を開けると一般資料閲覧室の入口となる。室内も外観と同じく華美な装飾はなく、シンプルな造りである。また、建物正面部分に窓が少ないのを補うように、天井にドーム型の窓と閲覧室の東側に大きな長方形の窓があり、自然光を室内に取り入れる設計となっている(写真24)。見晴らしのよい最上階には、特別資料閲覧室があり、ガラス張りで防音のグループワークスペースも設置されている。

閲覧室のうち、地図資料閲覧室(写真25)は、オフサイト施設のコースウェイサイド館の1階部分にある。12万点を超える地図のデジタルコレクションは有名であり、ズーム機能が備わったシステムで高解像度の地図を閲覧することができる。

コースウェイサイド館は、比較的新しい現代的な建物で、1989年に第1期、1995年に第2期と段階的に開館した(写真26)。スペースの大部分は書庫で占められ、オフサイト施設として本館の閲覧サービスを支えている。本館との距離が近いので、他の国立図書館であれば数日かかるオフサイト施設からの資料の出納が、スコットランド国立図書館では、ほぼ当日中に利用者の手元に届く。

建物と閲覧室のスペースはそれほど広くはないが、スコットランド図書館には、年間25万人の利用者が来館している。これは、同館がメーリングリストやソーシャルメディア等を活用し、特別展示等のイベントの案内からカフェの新メニューの紹介まで積極的な広報を展開していることと無関係ではないだろう。

実際に来館者の半分以上は、ギャラリーやカフェ等、閲覧室以外の利用者である。

おわりに

英国図書館とスコットランド国立図書館、2つの図書館は建物の規模、閲覧室の構成、サービス内容等、異なる部分が多いが、どちらも利用者の多様な関心やニーズにうまく対応し、様々なサービスを提供している点で非常に魅力的な図書館であった。

両館ともに伝統的な図書館利用者である研究者だけにとどまらず、一般公衆又は実務家を想定したサービスメニューを備えている。たとえば、英国図書館の場合、研究者には閲覧室の利用や資料提供サービス、実務家には閲覧室の利用に加えてビジネス支援サービス、一般公衆には展示ギャラリー、ショップ、講演会といった具合である。

図書館の知的資産へのアクセスを推進するという理念は、両館で提供されるサービスのうちに確かに息づいていると言えよう。

(おくむら まきと 利用者サービス部複写課)



国会議事堂内での図書館運営 国会分館

昭和11（1936）年竣工当時の建築美術の粋を極めた国会議事堂。その4階中央、衆参両院に跨るスペースにある国立国会図書館の分館（国会分館）は、まっ白な漆喰細工の壁と天井、羊毛の赤絨毯、スタンドグラス、優美なアーチ型の回廊や扉に囲まれています。そうした外観が醸し出す雰囲気のおかげでしょうか、東京本館の職員たちは、「分館は優雅でいいね。」と羨みます。

とんでもない誤解です。大規模ゆえに業務分担が進んだ本館と異なり、国会分館は国立国会図書館の一部署でありながら一個の独立した小規模図書館でもあり、私たち職員は施設運営からあらゆる雑務までに日々東奔西走なのです。

国会議員やその秘書、国会職員のための開架図書館である国会分館は、幅広い分野の図書や雑誌、中央・地方・業界の新聞、議事資料等、多岐の資料を扱っています。毎日、資料を選定し、資料毎に異なるルートで受け入れ、整理して閲覧に供し、資料毎のルールで保存します。勿論、カウンターで閲覧者対応も行います。さらに、国会議員からの依頼を受けて所蔵資料を使った調査も行います。こうした業務は日々怒涛の勢いで襲来し、毎週末・毎月末には各種の書類業務や資料入替えの重労働も待ち受けます。

そんな国会分館の職員に求められる第一のものは、脳のワーキング・メモリ容量です。複数の仕事を迅速に同時処理すべき局面が多いので、



容量不足だと、自分が何の用事で必死に階下へ駆け降りているのだから分からなくなり、議事堂の豪華な大理石階段の途中で棒立ちになります。

第二に、肉体労働の素質が求められます。大量の資料を抱え、筋肉痛になるのも厭わず東西南北、上下左右の運搬作業は日常茶飯事です。分館に配属されて痩せた、と喜ぶ職員もいます。

第三に、器用な手指が必要です。国会分館職員たるもの、特注の木製の新聞綴じ棒に新聞を綴じる伝統技を会得しなければなりません。しかし、私を含む不器用組はろくに上達せず、留め具を盛大にすっ飛ばすこと度々、運悪く閲覧者に目撃されて恥をかきます。また、破損した資料の補修や議事資料の簡易製本等も行いますが、ここでも不器用者は格闘を繰り広げます。

外から見る優雅さとのギャップなぞ何のその、私たちは汗水垂らして奮闘しています。

（国会分館資料情報第一係 M）

平成27年度
国立国会図書館長と
都道府県立及び
政令指定都市立
図書館長との懇談会



7月2日、東京本館において標記懇談会を開催した。国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的とするこの会は今年で51回目となり、都道府県立および政令指定都市立図書館等69機関から76名が参加した。

懇談会に先立ち、当館の館内見学を行い、約50名が参加した。懇談会では、文部科学省から図書館行政の動向について報告があり、当館からは「国立国会図書館の一年の動き」、「デジタル時代の地域資料情報の共有と活用：事前アンケートに基づく報告」、「国立国会図書館サーチと地域資料」の3つの報告を行った。

公共図書館からの地域資料情報の作成および共有に係る事業についての報告として、吉岡克己佐賀県立図書館長から、地域資料のデジタル化への取り組みや「佐賀の昔話」、「佐賀の自然デジタル大百科」等の地域情報に関する各種データベースなどについて、高橋貢秋田県立図書館長から、ビジネス支援、金融セミナーおよび観光支援等の事例、秋田県デジタルアーカイブの作成などについて、それぞれ紹介があった。

報告後の質疑応答・懇談では、図書館における電子書籍の扱いに関する国内外の状況に関する質問のほか、視覚障害者等へテキスト化データを提供するための実証実験、書誌データ利活用の拡大に向けた今後の取り組み、国立国会図書館サーチが蓄積している各館所蔵データの活用に関して、当館に対する質問や要望が寄せられた。

第6回科学技術情報 整備審議会



7月21日、国立国会図書館東京本館において、第6回科学技術情報整備審議会が開催された。委員・専門委員10名、当館からは館長ほか13名が出席した。なお、安西委員長は所用により途中で退席し、以後の進行は竹内委員長代理が務めた。

第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けた基本方針検討部会の5回にわたる検討の内容および部会が作成した「イノベーションを支える「知識インフラ」の深化のための提言～第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～（素案）」について、竹内部会長と事務局から報告した後、質疑および懇談を行った。

懇談では、「知識インフラ」（国全体の新しい情報基盤）について国全体で議論をする場を設ける必要があること、国内のオープンデジタルの出版物の収集・保存が急務であることなどが指摘された。また、外国学術雑誌の価格高騰に対して、国立国会図書館は、大学に属さない研究者等を念頭に、国民にとって必要不可欠な範囲を押さえた収集を行っていくべきであるとの意見があった。

今後、今回の審議会での指摘等を受けて、提言案について更に部会で検討し、今年度中に開催が予定される第7回科学技術情報整備審議会において、提言が提出される見込みである。

審議会に関する情報は、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国立国会図書館について > 審議会・科学技術情報整備審議会 (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/tech/council/index.html>) に掲載している。

科学技術情報整備審議会委員名簿(五十音順 敬称略)(平成27年7月21日現在)

委員長	安西 祐一郎	日本学術振興会理事長
委員長代理	竹内 比呂也	千葉大学副学長
委員	安藤 慶明	文部科学省大臣官房審議官
	喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所長
	倉田 敬子	慶應義塾大学文学部教授
	児玉 敏雄	日本原子力研究開発機構理事長
	佐藤 義則	東北学院大学文学部教授
	戸山 芳昭	国際医学情報センター理事長
	中村 利雄	日本商工会議所専務理事
	中村 道治	科学技術振興機構理事長
	藤垣 裕子	東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系教授
専門委員	村山 泰啓	情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長

法規の制定**【法律第59号】 貿易保険法及び特別会計に関する法律の一部を改正する法律**

(平成27年7月17日公布)

独立行政法人日本貿易保険を政府全額出資の特殊会社である株式会社日本貿易保険に移行することとなったことを受け、同機関を国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）第24条に規定する出版物の納入義務の対象機関とするため、同法別表第一に株式会社日本貿易保険が追加された。平成29年4月1日から施行される。

【規則第4号】 国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則

(平成27年8月21日制定)

国際子ども図書館のリニューアルに伴い、第一資料室および第二資料室を統合して名称を児童書研究資料室に変更し、メディアふれあいコーナーを廃止するとともに、閲覧等の図書館サービスに関する手続を定める規定を整備した。また、視覚障害者等用資料の国際子ども図書館における館内提供を開始するとともに、登録視覚障害者等の申込みに応じて、関西館から学術文献録音テープ等のうち児童書に関するものを取り寄せ、閲覧に供するものとした。あわせて所要の規定を整備した。メディアふれあいコーナーの廃止に伴う改正規定は、平成27年9月1日から施行され、それ以外の改正規定は、同月17日から施行される。

【規則第5号】 国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則

(平成27年8月21日制定)

国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則（平成12年国立国会図書館規則第4号）の改正に伴い、第一資料室および第二資料室を統合して児童書研究資料室とすることにより、国際子ども図書館資料情報課の所掌事務に係る規定の整備を行った。また、関西館の学術文献録音テープ等のうち児童書に関するものの取寄せサービスに関する事務ならびに児童書ギャラリーの管理および運営に関する事務を同課において行うものとした。あわせて所要の規定を整備した。平成27年9月17日から施行される。

これらの法規による改正後の国立国会図書館法、国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則および国立国会図書館組織規則（平成14年国立国会図書館規則第1号）は、施行後に国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws/index.html>）に掲載される。

お知らせ

■ 第17回図書館総合展に参加します



11月10日（火）から11月12日（木）に、図書館に関する国内最大の展示会である、第17回図書館総合展に参加します。

展示ブースでは、国立国会図書館の多様なサービスをプレゼンテーション等でご紹介します。また、期間中に次のフォーラム（講演会）を開催します。ぜひご来場ください。

○フォーラム

「人は図書館をどのように思っているのか」を知るために—「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」の概要と利活用—

日 時：11月12日（木）10:00～11:30

会 場：パシフィコ横浜 展示ホール第8会場（定員100名）

講 師：大柴 忠彦（国立国会図書館関西館図書館協力課長）

高城 雅恵（国立国会図書館関西館図書館協力課副主査）

佐藤 翔（国立国会図書館関西館図書館協力課非常勤調査員、
同志社大学免許資格課程センター助教）

【フォーラム参加申込方法（先着順）】

ホームページの参加申込みフォームからお申し込みください。

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>イベント・展示会情報

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/lff2015.html>

または次の事項を明記の上、FAXでお申し込みください。

- ①イベント名（図書館総合展フォーラム）、②氏名（ふりがな）、③電話番号・FAX番号、④所属（図書館などに所属されている方のみ）

○申込み・問合せ先 国立国会図書館 総務部 総務課 広報係

FAX 03 (3597) 5617 電話 03 (3581) 2331 (代表)

第17回図書館総合展（主催：図書館総合展運営委員会）

期間 11月10日（火）～11月12日（木）10:00～18:00

会場 パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

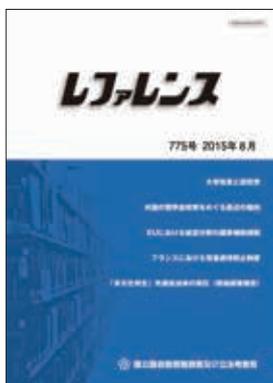
お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 774号 A4 80頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会
参議院議員定数配分をめぐる近時の最高裁判例—最高裁平成26年11月26日
大法廷判決を中心として—
腐敗防止の国際標準化と政治倫理
国会改革の経緯と論点(資料)



レファレンス 775号 A4 126頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会
大学改革と研究費—運営費交付金と競争的研究費の一体的改革をめぐって—
米国の奨学金政策をめぐる最近の動向—学生ローンと所得連動型返済プランの
問題を中心に—
EUにおける航空分野の国家補助規制
フランスにおける児童虐待防止制度
「多文化共生」先進自治体の現在—東海及び北関東の外国人集住自治体を訪問
して—(現地調査報告)

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

訂正

本誌652/653(2015年8/9月)号23ページ「国立国会図書館デジタルコレクション収録の脚本」に誤りがありました。

上から5行目

(誤) 緒方拳

(正) 緒形拳

C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
The 10th anniversary issue of the *Hakubunkan's* magazine “*Taiyō*” with extra binding: from the magazine collection of the *Nunokawa Bunko*
- 04 NDL Special Exhibition “1945: The things we read and wrote before and after the war ended”
- 09 Japanese paper in action!!: restoring library materials using “*Washi*”
- 16 Living Knowledge: The British Library’s Future Vision
- 22 Travel writing on world libraries: British Library and National Library of Scotland
- 15 <Books not commercially available>
○*Anteika shori: Ōtsunami hisai bunkazai hozon shūfuku gijutsu renkei purojekuto: Stabilization processing*
- 28 <Tidbits of information on NDL>
Library management in the National Diet Building: Detached Library in the Diet
- 29 NDL NEWS
○Conference with directors of prefectural and major municipal libraries in FY 2015
○6th meeting of the Council on Organization of Science and Technology Information
○Rules & regulations
- 33 <Announcements>
○Library Fair & Forum 2015
○Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成27年10月号 (No.654)

平成27年10月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集責任者 小寺正一

印刷所 株式会社正文社印刷所

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「第一〇番 山城國 明星山 三室戸寺」
中沢弘光 画 石倉翠葉 解説 金尾文淵堂 大正14
(1925) 1枚 25.5×38.5cm
〔西国三十三所巡礼画卷〕〈請求記号 寄別7-8-2-5〉所収
〔国立国会図書館デジタルコレクション〕でご覧になれます
(館内限定)

国立国会図書館月報

平成27年10月1日発行 (毎月1回1日発行)
(10月号通巻664号)